

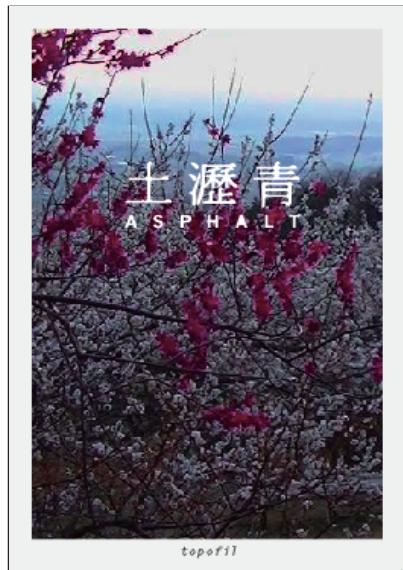
2014年11月上旬配本予定

ASPHALT

佐々木友輔+木村裕之 編

土瀝青——場所が揺らす映画

予価：1500円（+税）／196頁／A6（文庫サイズ）／ソフトカバー ISBN 978-4-9905835-1-4 C0074



場所が映画を揺さぶる、
映画が眼差しを揺さぶる。

茨城の貧農の暮らしを描いた長塚節の長編小説『土』（1910年）を原作として、そのテキストの朗読と、郊外化を経た現在の茨城を撮影した映像をかさねあわせることによって制作された映画『土瀝青 asphalt』。本書はその公開を記念して編まれた論考・対談集です。『土瀝青』を観ることを出発点として、映画、ドキュメンタリー、アート、社会学、都市論など様々な分野で活躍する著者たちが、芸術と場所の関わり、そしてこれからの作家のあり方について論じます。

著者紹介

石川初 ランドスケープ・デザイナー。自称・地上絵師。主な著書に『ランドスケールブック——地上へのまなざし』『今和次郎『日本の民家』再訪』（共著）などがある。

鈴木並木 ライター。『アジア映画の森——新世紀の映画地図』『映画はどこにある インディペンデント映画の新しい波』などに参加。

地理人 実在しない都市の地図「空想地図」の制作者。主な著書に『みんなの空想地図』（白水社）がある。

永瀬恭一 画家。二〇〇八年より「組立」開始。

南後由和 社会学者。社会学者。主な著書に『磯崎新建築論集第7巻 建築のキュレーション』（編著）『モール化する都市と社会』（共著）などがある。

萩野亮 映画批評。ドキュメンタリーカルチャーマガジン「neoneo」編集委員。編著書に『ソーシャル・ドキュメンタリー 現代日本を記録する映像たち』がある。

渡邊大輔 映画史研究者・批評家。専攻は日本映画史・映画学・メディア論。主な著作に『イメージの進行形』、『日本映画の誕生』（共著）などがある。

渡邊英徳 情報アーキテクト。戦災・災害をテーマとした「アーカイブズ・シリーズ」を制作。著書に講談社現代新書『データを紡いで社会につなぐ』などがある。

佐々木友輔 映像作家・企画者。映画制作や展覧会企画、執筆など様々な領域を横断して活動。主な著作に『floating view “郊外” からうまれるアート』がある。

▶ご注文はツバメ出版流通まで **FAX: 03-3721-1922** mail: info@tsubamebook.com
TEL: 03-6715-6121 http://tsubamebook.com

貴店名（番線印）	新刊 トポフィル		www.topofil.info/ 返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人
	注文数	佐々木友輔+木村裕之 編 ASPHALT 土瀝青——場所が揺らす映画	
ご担当：	様	○ISBN：978-4-9905835-1-4	